

*** ソ連製人工衛星追跡用 AFU カメラ復元 (その2)**

組み上がった人工衛星追跡用AFUカメラは写真1である。



写真 1 組み上がったソ連製人工衛星追跡用 AFU カメラ

何とか組み上げ、復元したが図面、手順書が全くない状態での組み上げであった。必要な工具類は揃っており、部品もほぼ完全に揃っていたと思われる。参考にしたのは天文月報アルバムに見つけた写真2と台長室から見つかった写真3の二つである。



写真 2 富田、下保両氏とAFUカメラ



写真 3 台長室の写真

架台ベースと思われるものは2個あった。最初はこれを2段に重ねるものと思っていたが、AZ軸が取り付けベースの方が大きい事から、この2つは袋状に組み立てることが分かり、小さい方(写真4)を3点の支持点の上に乗せ、それに被せるようにAZ軸を取り付けるベース(写真5)を組み立てた。



写真 4 3点支持に載るベース



写真 5 AZ軸が載るベース

AZ軸が載るベースにAZ軸を組んだのが写真6である。このAZ軸にAZ回転ベースを組み上げた所が写真7である。



写真 6 AZ 軸を取り付けたベース



写真 7 AZ 軸にヨークベースを載せた所



写真 8 両翼のヨークを取り付けた



写真 9 台車付の台の上へ載せた

ここまでは1人で仮組をし、一度ばらして台車付の台の上を組みなおしたところが写真9である。このヨークにトラッキング架台を載せるところからは、佐々木君との2人での作業になり、途中の写真を撮り損ねた。ヨークにトラッキング軸を載せ、その上に制御部兼ファインダー架台を載せた。



写真 10



写真 11



写真 12

次がカメラ本体の望遠鏡のレンズ部を載せるのであるが、そのためにはレンズ（写真 10）下のカバーを外さなければ取り付け部の構造が分からなかった。

写真 11 がカバーを外した所、写真 12 はレンズカバーを外したところである。

レンズ部を載せた後、望遠鏡のカメラ部を取り付けるのが大変であった。これは非常に重く人力ではとても手に負えなかったので、油圧式の昇降台車を使って 2 人で何とか取り付けることが出来た。最後にファインダーを取り付け一応組み上げを完了した。

この組み上げ、復元は 2 人では手一杯で余裕がなくトラッキング軸の取り付け以降の手順の写真を撮る事ができなかった。この段階で外見は復元できたが、駆動が完全ではない。

この駆動を完全にするためには、今一度、ある程度まで分解し、組建て直しをする必要があるので、そのとき細部にわたる記録写真を撮るつもりである。